

平成28年度事業報告書(概要)

社会福祉法人 秀峰会

平成28年度事業報告書

目次

1. はじめに
2. 横浜市の高齢化の状況
3. 経営活動の状況
 3. 1 法人の理念
 3. 2 平成28年度経営方針
 3. 3 主要経営活動
 3. 4 財務の状況
 3. 5 理事会・評議員会
 3. 6 防災対策
4. 事業活動の状況
 4. 1 各サービス事業の利用者数の状況
 4. 2 施設・事業所の事業活動の状況
 4. 3 地域ケアプラザの運営
5. 職員の状況
 5. 1 職員の入退職・有資格者の状況
 5. 2 職員の教育・研修
6. 社会貢献活動と地域交流
 6. 1 社会貢献活動の状況
 6. 2 地域交流の状況

平成28年度 事業報告書

1. はじめに

社会福祉法人 秀峰会（以下「秀峰会」という。）は、昭和59年、旭区に特別養護老人ホーム さくら苑を開苑して以来、着実な発展を続け現在では横浜市内全域で153事業所（平成29年4月1日現在）を運営するまでになりました。平成26年5月には職員を中心とした30周年記念式典を盛大に催すと共に、次の30年への新たな飛躍の一步となるべく、「理念に基づく経営」を念頭に「地域に根差した介護事業への取り組み」と「経営基盤の強化」に注力してきました。

平成28年度は、改正介護保険法（医療・介護総合推進法）が順次施行され、平成27年の報酬改定、第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の2年目で、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの充実化が進められております。

秀峰会は、平成24年度以降、地域包括ケアシステム実現に向け、その主軸サービスとなる定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所（13事業所）、小規模多機能型居宅介護事業所（8事業所）の開設等を順次進め、これらの事業も軌道に乗り始めております。

そして、新たに策定した中期3ヶ年経営計画（28年～30年）の初年度として、秀峰会として初の「24時間365日 訪問看護事業所（ナース24港北）」を6月に開所しました。

また、社会貢献活動の一環として秀峰会は、「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」に加入しており、熊本地震に伴う被災施設支援として、平成28年5月に南阿蘇村の地域密着型特別養護老人ホーム「ひのおか顺心館」に介護職員を1ヶ月、延べ8人を派遣し支援活動に取り組みました。

介護保険制度の大きな変化の流れを捉えながら、介護業界を取り巻く環境が厳しさを増す状況下で、秀峰会は、事業の原点に立ち戻り、平成28年度も引続き「堅実経営の年」と位置付け、「事業課題への着実な対応」と「人財確保・育成」に重点を置き取り組むことで、一定の成果を見ることが出来ました。

今後も「理念に基づく経営」を基本に秀峰会は、地域の皆様と共に歩んでまいります。

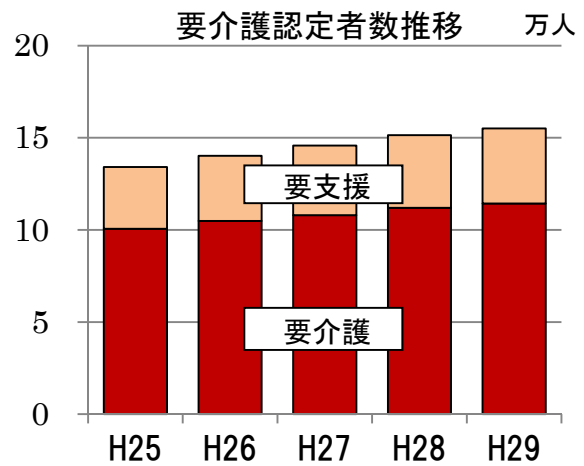
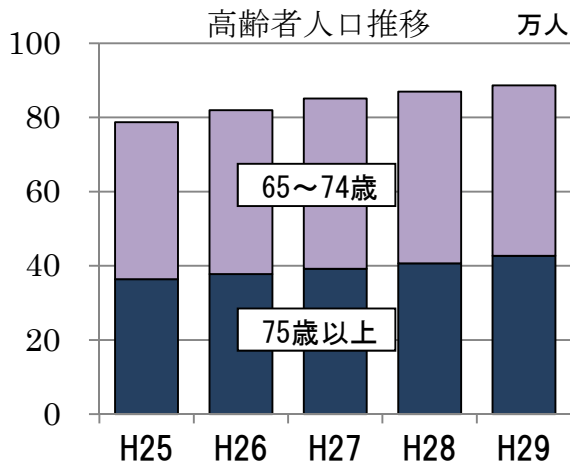
2. 横浜市の高齢者化の状況

(1) 横浜市健康福祉局が毎月公表している基礎統計データより読み取った横浜市の高齢者人口等の推移を表 2-1 に示します。

表 2-1：横浜市高齢者人口等の推移

| 項目 | | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 |
|-------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 総人口（3月現在） | 人 | 3,694,802 | 3,700,962 | 3,709,467 | 3,723,874 | 3,728,021 |
| 高齢者数（65歳以上） | 人 | 785,759 | 817,158 | 847,005 | 869,686 | 886,554 |
| 高齢化率 | % | 21.3% | 22.0% | 22.8% | 23.4% | 23.8% |
| 要介護認定者（3月末） | 人 | 134,130 | 140,167 | 145,786 | 151,445 | 155,045 |
| － 要支援 | 人 | 33,515 | 35,316 | 37,769 | 39,430 | 40,729 |
| － 要介護 | 人 | 100,615 | 104,851 | 108,017 | 112,015 | 114,316 |

（横浜市健康福祉局統計より）*29年の認定者数は2月末



(2) 平成 29 年 3 月の高齢者数（65 歳以上）は約 89 万人であり、高齢化率は 23.8%に達しています。今後も少子高齢化は進行し、いわゆる団塊の世代の方々が後期高齢者（75 歳以上）となる平成 37 年には 65 歳以上の人口は約 100 万人で、高齢化率が約 27%になると見込まれています。

(3) 平成 25 年と比較した平成 29 年高齢者人口の伸び率は 12.6%ですが、うち後期高齢者人口の伸び率は 17.3%にあるなか、要介護認定者数の伸び率は 15.6%にとどまっています。

(4) 要支援認定者数の伸び率は、横浜市総合事業の実施に伴い平成 29 年 2 月は前年 3 月比 3.3%（平成 25 年から 28 年までの平均 7.1%）となっています。また、要介護 1～5 認定者数の前年伸長率も 2.1%（同平均 4.1%）で、これまでの認定者数の伸び率と比較し低くなっております。

3. 経営活動の状況

3. 1 法人の理念

秀峰会は、横浜の大地に住まう高齢の方々を支援させて頂きたいという願いを持って、以下に示す法人の理念のもとで、高齢者介護事業を中心に日々活動しております。

■ 人間が主体である

ご利用者と職員が常により高い自己実現に向かって生活や仕事ができる環境をつくります。ご利用者お一人お一人が、ご自身の人生の主役となって日々の生活を送られることが何よりも大切と考え、様々な側面からそのお手伝いをいたします。

■ 連帯の輪を無限に広げていく

住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域の中での連帯が不可欠です。秀峰会は地域社会での交流を通じ、あらゆる人が支えあって共に生きる地域連帯の実現を目指します。

■ 日に日に新たな今日を創造していく

この世に生を受け、人は人生の旅路を歩んでいきます。歩みは誰とも替わることのできないものであり、一歩一歩は真にその人固有の価値です。そしてその歩みの終焉にこの世界から旅立つ日が訪れるのです。人生の一日一日がその人の心に叶うものであることを願い、私たちは共に歩みながら支援活動を続けます。

3. 2 平成28年度経営方針

- (1) 秀峰会は、平成28年度、次の経営方針のもとで事業を展開して参りました。
- 1 改定介護報酬および需要動向の変化を把握し、最適なサービス提供に取り組む。
法人内外の多職種連携を推進し、秀峰会HCNWを深化させ地域社会の福祉向上に貢献する
 - 2 必要人財を確保し、事業所運営を安定させることで、予算を達成する。
 - 3 コンプライアンス体制の確立に向け、基本の徹底および業務の標準化・改善（ICT化）を推進する。
 - 4 働きがいある職場づくりを進め、職員の成長と自己実現を促す。
- (2) この経営方針のもとで、各サービス事業部、事業所・施設および法人本部は一体となり、事業所・施設の効率的な事業運営、利用者への最適なサービスの提供を目指した人財育成とサービス体制の向上および地域に開かれた施設として地域住民との多様な交流推進を目指して参りました。

3. 3 主要経営活動

(1) 秀峰会は地域包括ケアシステムを見据え、在宅サービスの充実と地域密着型サービスの強化に取り組み、秀峰会として初の「24時間365日訪問看護事業所（ナース24港北）」を開所しました。また、29年4月には、小規模多機能型居宅介護事業所（われもこう）を開所する運びとなりました。

-1) 平成28年 6月 24時間365日訪問看護事業所 ナース24港北
秀峰会として19番目の事業所を港北区に開設しました。

-2) 平成29年 4月 小規模多機能型居宅介護事業所 われもこう
秀峰会8番目の事業所を保土ヶ谷区に開設しました。

-3) 平成29年 4月 つくし保育園 戸塚
秀峰会4番目の保育園を戸塚区に開園しました。

ナース24港北



小規模多機能型居宅介護 われもこう外観

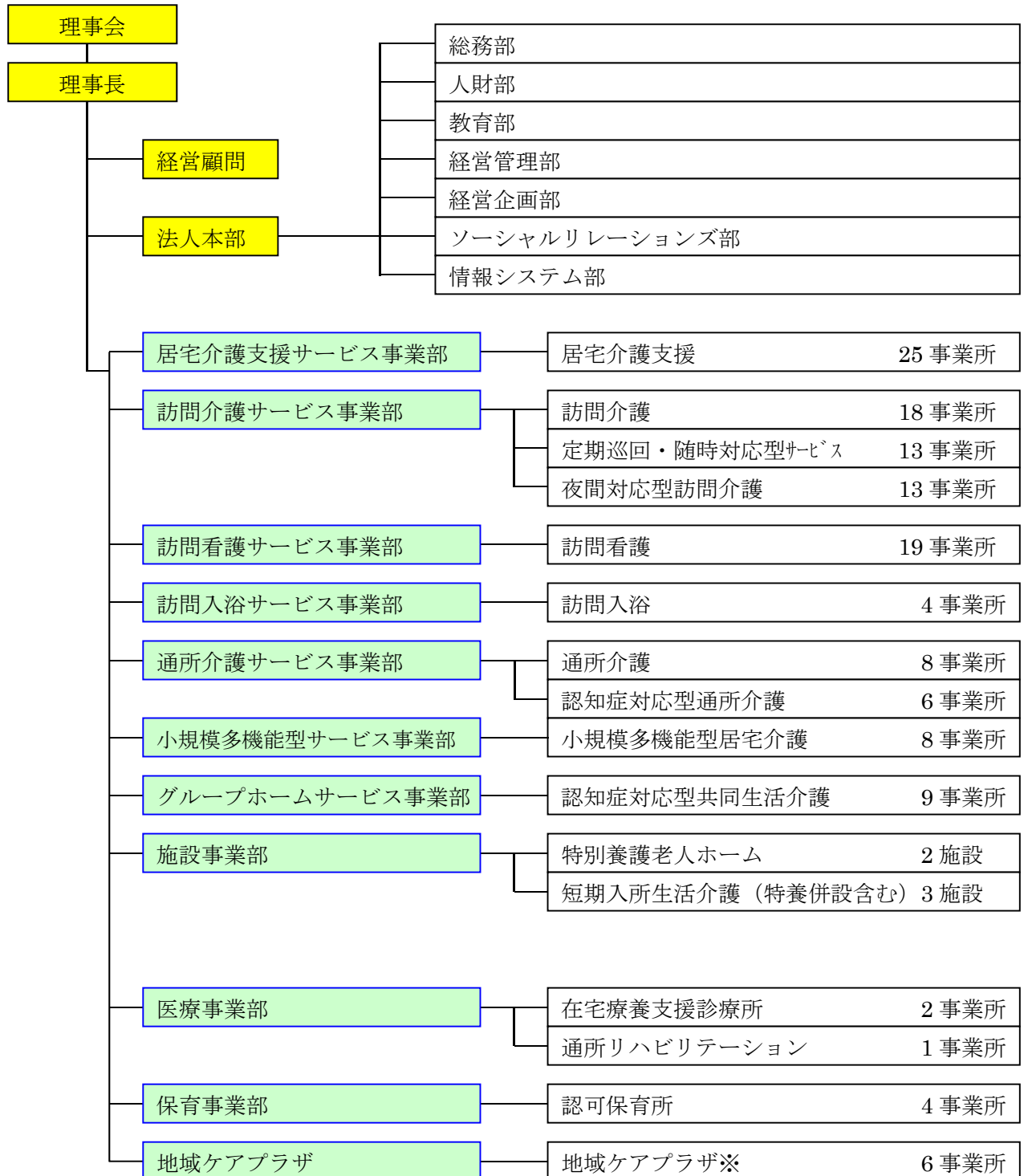


つくし保育園 戸塚



(2) 以上の活動の結果、平成29年度4月1日時点において秀峰会が運営する事業所・施設数は153となりました。秀峰会組織体系に示すサービス事業部別の事業所数は図3-1のとおりです。

図3-1 秀峰会組織体系とサービス事業部毎の事業所数内訳



※地域包括支援、介護予防支援、地域活動・交流の3事業を含む

3. 4 財務の状況

- (1) 平成28年度の事業収入は11,060百万円でした。平成25年度から平成28年度までの事業収入は、年率約7%の成長率で推移しておりました、平成28年度は、前年比で3.8%と、その伸び率を多少下回りますが成長性は維持する結果となりました。これは、定期巡回・随時対応型訪問介護看護および訪問看護等の訪問系サービスの成長(7.6%)に加え、小規模多機能型居宅介護サービスの収入増があげられます。
- (2) 平成28年度の経常利益は▲187百万円(前年差▲509百万円)となっておりますが、これは、本年度より会計方針の変更に伴い賞与484百万円を引当処理したもので、これを除く経常利益は297百万円で前年比▲7.6%と前年を若干下回る結果でした。
- (3) 人件費は前年比10.6%で上記賞与引当金を除くと4.8%増加となります。これは職員数(前年比4.2%)を増やしたことに加え健保・厚生年金加入者拡大等によるものです。経費支出も、前年比1.1%で、これは、職員の採用費用等の増加によるものです。

表3-1：事業収入の推移

(単位 千円)

| | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|------|-----------|-----------|------------|------------|
| 事業収入 | 9,005,457 | 9,829,854 | 10,659,537 | 11,059,905 |

表3-2：事業活動収支の概況

(単位 千円)

| 項目 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
|------|----------------------|----------------------|--------|
| | 実績 | 実績 | 前年比 |
| 事業収入 | 10,659,537 | 11,059,905 | 103.8% |
| 経常利益 | 321,638 (3.0%) | ▲187,213 (▲1.7%) | --- |
| 人件費 | 8,360,750 (78.4%) | 9,248,925 (83.6%) | 110.6% |
| 経費 | 1,977,149 | 1,998,193 | 101.1% |

3. 5 理事会・評議員会

(1) 理事および評議員の状況

-1) 平成29年4月1日現在の理事および評議員の状況

理事定数6名、監事定数2名 (敬称略)

理事長 櫻井 大

理事 櫻井 大 櫻井 太郎 岩澤 雅子 佐野 龍一郎 桑島 主税 坂本 富士子

監事 萩原 瑞己 糸山 美佐子

評議員定数7名 (敬称略)

相馬 裕 櫻井 貞久 佐藤 茂 渡邊 幹洋 阿部 恵司 小川名 雅子

吉本 すま子

-2) 平成29年2月開催の評議員選任・解任委員会及び平成29年3月開催の第81回評議員会／第155回理事会の決議、並びに改正社会法の施行を受け、一部評議員・理事の退任及び就任がありました。

・評議員の退任（平成29年3月31日）

櫻井 大 櫻井 太郎 瀬戸 次男 塚本 悦郎 櫻井 恭子
後藤 節雄 尾崎 雄 岩澤 雅子 名雪 真 奥山 由佳里

・理事の退任（平成29年3月31日）

相馬 裕 櫻井 貞久 佐藤 茂

・評議員の就任（平成29年4月1日）

阿部 恵司 小川名 雅子 吉本 すま子

・理事の就任（平成29年4月1日）

佐野 龍一郎 桑島 主税 坂本 富士子

（2）理事会・評議員会の開催状況

-1) 平成28年度に開催された理事会は7回、評議員会は3回でありました。

-2) 平成28年度の理事会および評議員会は、理事・監事・評議員の方々の多大なご協力を得て、一人ひとりがその責任を自覚し、理事長以下執行部門の業務実施を監視し、正しい法人運営がなされるよう運営をしております。

理事会および評議員会における理事、評議員、監事の出席率は以下のとおりです。

- | | | |
|------------------|-----------|---------|
| ① 理事会の出席率（7回開催） | 理事の延べ出席率 | : 94.6% |
| ② 評議員会の出席率（3回開催） | 評議員の延べ出席率 | : 93.8% |
| ③ 理事会・評議員会の出席率 | 監事の延べ出席率 | : 100% |

3. 6 防災対策

（1）秀峰会は、東日本大震災、その後の熊本地震等で得た教訓を活かし、横浜市が想定している大震災等を想定した災害に対する防災対策を進めており、グループホーム、特別養護老人ホーム等のご利用者が入居している施設においては、防災訓練、夜間避難訓練を地域住民や消防署のご協力を得ながら定期的を実施しております。

（2）平成28年7月に発生した相模原市の障害者支援施設における殺傷事件を受け、防犯対策の強化にも取り組んでおります。平成28年度においては、グループホーム及び小規模多機能型居宅介護の全施設に対し、警備会社連携の非常通報用ペンダントを配備しました。また、秀峰会が運営する全保育園に対し、110番通報装置を配備しました。引き続きマニュアル等の整備に努めていきます。

（3）災害時に施設と地域が消防応援協力を相互に行い被害の軽減を図る活動の一環として、短期入所施設 花の生活館では、平成9年から緑園連合自治会および障害福祉サービス事業所 ひかりの園と相互の消防応援協力に関する覚書を交わしており、またグループホーム春風の丘が地元の牛久保東町内会との間で、「災害時の消防応援協力に関する協定」を締結しております。今後とも災害時に近隣からの協力を得られるよう協定を結ぶなど、

地元町内会・行政・消防署等との連携体制の強化に取り組みながら防災対策を進めてまいります。

- (4) 秀峰会は、「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」に加入しており、被災時には、被災していない施設から応援を受け、被災地域の職員は地域の支援に尽力できる災害時広域支援体制の整備にも努めております。秀峰会は、平成28年熊本地震に伴う災害施設支援として、平成28年5月に南阿蘇村の地域密着型特別養護老人ホームひのおか順心館に介護職員を1ヶ月、延べ8人を派遣しましたが、この活動の一環です。

4. 事業活動の状況

4. 1 各サービス事業の利用者数の状況

秀峰会の平成28年度における各サービス事業の利用者数の状況は、表4-1のとおりでした。利用者数は、介護保険、障害者総合支援、医療保険等の毎月のサービスご利用者の累計利用者数で示しております。概ね各事業でご利用者数は前年を上回ることができました。

表4-1-1:各サービス事業の累計利用者数

利用者数(人)

| 事業名 | | 平成27年度 | 平成28年度 | 前年比 |
|------------------|---------------|--------|--------|--------|
| 居宅介護支援 | 介護保険 | 71,882 | 74,003 | 103.0% |
| | 横浜市総合事業(要支援含) | 18,078 | 20,121 | 111.3% |
| 訪問介護 | 介護保険・要介護 | 26,986 | 26,958 | 99.9% |
| | 介護保険・夜間対応型 | 3,041 | 4,464 | 146.8% |
| | 横浜市総合事業 | 10,991 | 11,399 | 103.7% |
| | 障害者総合支援 | 7,293 | 7,300 | 100.1% |
| | 有償サービス | 2,530 | 2,459 | 97.2% |
| 定期巡回 随時対応型訪問介護看護 | | 2,605 | 3,503 | 134.5% |
| 訪問看護 | 介護保険 | 30,452 | 32,130 | 105.5% |
| | 医療保険 | 7,238 | 8,099 | 111.9% |
| 訪問入浴 | 介護保険 | 3,403 | 3,603 | 105.9% |
| | 障害者総合支援 | 346 | 357 | 103.2% |
| 訪問診療(医療) | | 3,226 | 3,735 | 115.8% |
| 保育 (つくし保育園) | 園児数 | 2,148 | 2,301 | 107.1% |
| | 一時保育利用数 | 351 | 557 | 158.7% |

表 4-1-2:各サービス事業の延利用者数

利用者数(人)

| 事業名 | | 平成27年度 | 平成28年度 | 前年比 |
|-------------|---------------|--------|--------|--------|
| 通所介護 | 介護保険 | 88,474 | 86,564 | 97.8% |
| | 横浜市総合事業(要支援含) | 8,212 | 7,499 | 91.3% |
| 認知症対応型通所介護 | | 19,352 | 19,840 | 102.5% |
| 通所リハビリ(医療) | | 8,886 | 8,161 | 91.8% |
| 小規模多機能型居宅介護 | | 58,333 | 60,780 | 104.2% |
| グループホーム | | 45,228 | 45,082 | 99.7% |
| 短期入所生活介護 | | 30,648 | 31,460 | 102.6% |
| 特別養護老人ホーム | | 54,935 | 53,769 | 97.9% |

4. 2 施設・事業所の事業活動の状況

(1) 秀峰会の各サービス事業の稼働状況として、(表 4-2) 訪問系サービスの前年比では、訪問看護サービス 10.0%、居宅介護支援サービス 4.6%および訪問入浴サービスも利用者増加に伴い 5.5%増にありますが、主力の訪問介護サービスは▲6.0%と利用者数が伸びず、加え軽度化によるサービス提供時間の短時間化が影響しております。

(表 4-3) 施設系サービスの稼働率では、小規模多機能型居宅介護、グループホーム、特別養護老人ホームは、ほぼ前年並みでしたが、通所介護は利用者数の前年割れが響き稼働率が 1.5 ポイント低下しました。

表 4-2 : 訪問系サービス事業の稼働状況

| サービスの種類 | 平成27年度 | 平成28年度 | |
|------------|------------------|---------|--------|
| | 実績 | 実績 | 前年比 |
| 居宅介護支援サービス | ケアプラン数 (* 予防を含む) | | |
| | 89,960 | 94,124 | 104.6% |
| 訪問介護サービス | サービス提供時間 | | |
| | 416,134 | 391,118 | 94.0% |
| 訪問看護サービス | サービス提供時間 | | |
| | 212,230 | 233,373 | 110.0% |
| 訪問入浴サービス | 訪問回数 | | |
| | 18,714 | 19,737 | 105.5% |

表 4-3：通所・短期入所・施設の稼働率

* 施設系の定員は一日当りの定員数

| サービスの種類 | 平成 27 年度 | | 平成 28 年度 | |
|--------------|----------|--------|----------|--------|
| | 延べ定員 | 平均稼働率 | 延べ定員 | 平均稼働率 |
| 通所介護サービス | 144,570 | 80.3% | 144,175 | 79.0% |
| 医療サービス（デイケア） | 11,900 | 74.7% | 11,955 | 74.5% |
| グループホーム | 126 | 98.3% | 126 | 98.1% |
| 短期入所：花の生活館 | 50 | 113.1% | 50 | 112.4% |
| 特養：さくら苑** | 82 | 99.6% | 82 | 99.2% |
| 特養：南永田桜樹の森** | 92 | 102.8% | 92 | 102.5% |
| 小規模多機能型居宅介護 | 58,333 | 80.1% | 60,780 | 83.7% |

(注) **：短期入所を含めた稼働率

(2) 特別養護老人ホームの入退所の状況

特別養護老人ホームの入退所の状況を表 4-4 に示します。退所はほとんどが死亡退所で、新規入居者の入居前の生活場所については、ご自宅および他施設からの割合が多くなっております。

表 4-4：特別養護老人ホームの入退所の状況

| 項目 | 退 所 者 | | | | 入 居 者 | | | |
|--------------------------|----------|----------|----|----|----------|----|-----|----|
| | 退所の理由 | | | | 入居前の生活場所 | | | |
| | 長期 入院 | 施設 変更 | 死亡 | 計 | 家庭 | 病院 | 他施設 | 計 |
| 特別養護老人ホーム さくら苑 | | | | | | | | |
| 26 年度 | 0 | 0 | 7 | 7 | 6 | 0 | 1 | 7 |
| 27 年度 | 0 | 0 | 10 | 10 | 6 | 1 | 3 | 10 |
| 28 年度 | 1 | 1 | 11 | 13 | 12 | 3 | 5 | 20 |
| 特別養護老人ホーム 南永田桜樹の森 | | | | | | | | |
| 26 年度 | 2 | 0 | 16 | 18 | 4 | 4 | 6 | 14 |
| 27 年度 | 0 | 1 | 21 | 22 | 10 | 5 | 7 | 22 |
| 28 年度 | 1 | 1 | 27 | 29 | 14 | 4 | 11 | 29 |

(3) ターミナルケアの対応状況

秀峰会は、ターミナルケアについて、特別養護老人ホームだけではなく、グループホーム、訪問看護サービスおよびクリニックの訪問診療においても積極的に対応してきております。平成 28 年度の対応状況は表 4-5 のとおりで、前年に比べ 48 人増加しております。今後、在宅で看取られるご利用者が多くなることが予想され、職員のターミナルケア対応の充実に努めてまいります。

表 4-5 ターミナルケアの対応状況

| | 特別養護 老人ホーム | グループ ホーム | 訪問看護 サービス | クリニック (訪問診療) | 合計 |
|-------|---------------|-------------|--------------|-----------------|-----|
| 26 年度 | 15 | 5 | 162 | 30 | 212 |
| 27 年度 | 17 | 5 | 151 | 27 | 200 |
| 28 年度 | 24 | 7 | 170 | 47 | 248 |

4. 3 地域ケアプラザの運営

(1) 秀峰会は、横浜市川井地域ケアプラザ、横浜市城郷小机地域ケアプラザ、横浜市中村地域ケアプラザ、横浜市笹野台地域ケアプラザ、横浜市白根地域ケアプラザおよび横浜市馬場地域ケアプラザについて、横浜市より指定管理者の委託を受け、その事業の管理、運営を行っています。

(2) 秀峰会が受託している地域ケアプラザの横浜市委託業務の運営実績は表 4-6 に示すとおりであり、平成 28 年度の運営実績を合算した総数は以下のとおりです。

- ① 地域活動・交流事業 会場利用者数 : 142,424 人
- ② 自主事業実施回数 : 1,741 件
- ③ 自主事業参加者数 : 38,954 人
- ④ 地域包括支援センター取扱件数 : 7,849 件

表 4-6 : 横浜市委託業務の運営実績

| 施設名/事業名 | | | 平成 28 年度 |
|--------------------------------------|-------|------|----------|
| 横浜市川井地域ケアプラザ (平成 10 年開所) | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | | 35,610 人 |
| | 自主事業 | 実施回数 | 316 回 |
| | | 参加者数 | 9,141 人 |
| 地域包括支援センター取扱件数(相談・訪問) | | | 1,486 件 |
| 横浜市城郷小机地域ケアプラザ (平成 16 年開所) | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | | 15,656 人 |
| | 自主事業 | 実施回数 | 184 回 |
| | | 参加者数 | 9,069 人 |
| 地域包括支援センター取扱件数(相談・訪問) | | | 1,826 件 |
| 横浜市中村地域ケアプラザ (平成 18 年開所) | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | | 22,940 人 |
| | 自主事業 | 実施回数 | 241 回 |
| | | 参加者数 | 3,156 人 |
| 地域包括支援センター取扱件数(相談・訪問) | | | 1,020 件 |
| 横浜市笹野台地域ケアプラザ (平成 25 年 1 月開所) | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | | 21,929 人 |
| | 自主事業 | 実施回数 | 168 回 |
| | | 参加者数 | 4,295 人 |
| 地域包括支援センター取扱件数(相談・訪問) | | | 927 件 |

| 施設名/事業名 | | 平成28年度 | |
|-------------------------|-------|---------|--------|
| 横浜市白根地域ケアプラザ（平成26年4月開所） | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | 19,196人 | |
| | 自主事業 | 実施回数 | 560回 |
| | | 参加者数 | 7,105人 |
| 地域包括支援センター取扱い件数（相談・訪問） | | 688件 | |
| 横浜市馬場地域ケアプラザ（平成27年2月開所） | | | |
| 地域活動交流 | 会場利用者 | 27,093人 | |
| | 自主事業 | 実施回数 | 272回 |
| | | 参加者数 | 6,188人 |
| 地域包括支援センター取扱い件数（相談・訪問） | | 1,902件 | |

5. 職員の状況

5. 1 職員の入退職・有資格者の状況

(1) 介護人材確保を巡る環境は非常に厳しい状況が続いております。特に新卒者の採用は厳しく、平成28年度に採用できた新卒者は14名（前年度16名）でした。

(2) 職員の入退職の状況

平成28年度の中途採用者を含めた入職、退職の状況は表5-1に示すとおりです。

入職者数が464名である一方で離職者数も379名の職員が種々の理由で秀峰会を離職しました。正職員の離職率が11.6%（前年10.2%）、準職員（有期契約職員）の離職率は19.2%（前年21.4%）で、その平均離職率は15.2%（前年15.7%）と若干の改善を見ております。

表5-1：職員の入職者数・退職者数の状況

(人)

| | 平成28年3月 | 入職 | 退職 | 準 ↔ 正* | 平成29年3月 |
|------------------|--------------|------------|------------|----------|--------------|
| 正職員 | 1,105 | 191 | 150 | +17 | 1,163 |
| 準職員 | 922 | 273 | 229 | -17 | 949 |
| 合計（正職+準職） | 2,027 | 464 | 379 | — | 2,112 |
| 登録ヘルパー | 937 | — | — | — | 882 |
| 総合計 | 2,964 | — | — | — | 2,994 |

*：準職員から正職員、または正職員から準職員への異動人数総計差

(3) 有資格者の状況

秀峰会は、利用者により良質なサービスを提供することを目的として、有資格者の採用および職員のより高度な資格取得を積極的に推進してきており、今後も継続して行きます。秀峰会職員（準職員含む）で平成28年度末に関係資格を保有する職員の延べ人数は3,787人で、その中の主要な資格の有資格保有者は表5-2のとおりです。

表 5-2：主要資格の有資格者の状況

| 資格 | 平成 28 年 3 月 | 平成 29 年 3 月 | 資格 | 平成 28 年 3 月 | 平成 29 年 3 月 |
|-------------------|----------------|----------------|--------------------|----------------|----------------|
| 医師 | 9 | 8 | 保健師 | 28 | 30 |
| 社会福祉士 | 72 | 74 | 正看護師 | 229 | 245 |
| 社会福祉主事任用 | 111 | 108 | 准看護師 | 44 | 53 |
| 主任介護支援専門員 | 57 | 69 | 言語聴覚士 作業・ 理学療法士 | 167 | 182 |
| 介護支援専門員 | 342 | 364 | 管理者研修（認知症） | 62 | 66 |
| 介護福祉士 | 657 | 717 | 実践者研修（認知症） | 93 | 105 |
| 介護職員基礎研修 | 69 | 67 | 開設者研修（認知症） | 3 | 3 |
| ホームヘルパー 1 級 / 2 級 | 918 | 923 | 認知症ケア専門士 | 12 | 14 |
| 介護職員初任者研修 | 82 | 107 | 保育士（保母） | 79 | 84 |
| 管理栄養士・栄養士 | 29 | 31 | 総計 | 3,063 | 3,250 |

（４）職員満足（ES）向上への取り組み

高齢者の増加に対応しながら、秀峰会が今後とも事業を成長させるためには、職員数の増加が必須で、新規採用者数の確保とともに、職員の定着率の向上を図り、離職者を減らすことが課題です。離職理由の分析や職員満足度調査を継続し実施すると共に、「公平公正な人事評価」、「キャリアパス」、「資格取得支援」、「女性の働きやすい職場環境整備」など「人財確保・育成」に取り組み、職員の満足向上に努めております。

（５）女性管理者の活用

秀峰会の事業所長、課長、事業部長等の管理者数は平成 29 年 3 月末で 131 名ですが、その中で女性の管理者数は 60 名で 45.8%になります。正職員の女性比率が約 66%であり、今後とも女性管理者の登用を積極的に図って行きます。

5. 2 職員の教育・研修

（１）秀峰会は、高齢者の「尊厳の保持」と「自立支援」を目標とし、ご利用者が「その人らしく」生活できるよう一人ひとりのニーズを大切にするとともに、ご家族の意見や要望を把握し的確に伝えるため、平成 28 年度には、管理職及び監督職研修を各人がプログラムを選択できる運営に変更しました。また、新規入職職員への法人の理念および基礎知識の理解徹底を図り年間 23 回、延べ 285 名に入職時研修を実施しました。

また、専門教育・研修についても、事業部・施設毎で実施し、回数の前年比127%、参加数で157%と職員が日々のOJTや内・外部の専門研修などで介護技術の向上に努める体制を整えております。

(2) 管理者研修、監督者研修、新卒採用研修および中途採用研修等の研修は以下のとおり40回実施され、延べ参加人数は495人でした。

| | | | |
|--------------------------|---|-----|------|
| -1) 管理者研修 | : | 4回 | 66人 |
| -2) 監督者研修 | : | 5回 | 89人 |
| -3) 新任管理職研修 | : | 5回 | 11人 |
| -4) 新卒職員受入研修(3日コース) | : | 1回 | 14人 |
| -5) 新卒採用職員フォローアップ研修(1年目) | : | 2回 | 30人 |
| -6) 新入職員受入研修(中途採用 正職員) | : | 11回 | 151人 |
| 新入職員受入研修(中途採用 準職員) | : | 12回 | 134人 |

(3) 職員の専門教育・研修について各サービス事業部および各施設で、開催された総回数は647回、延べ参加者総数は8,391人でした。

| | | | |
|--------------------|---|------|--------|
| -1) 居宅介護支援サービス事業部 | : | 21回 | 1,036人 |
| -2) 訪問介護サービス事業部 | : | 41回 | 2,092人 |
| -3) 訪問看護サービス事業部 | : | 20回 | 361人 |
| -4) 通所介護サービス事業部 | : | 136回 | 1,434人 |
| -5) 小規模多機能型サービス事業部 | : | 124回 | 897人 |
| -6) グループホームサービス事業部 | : | 85回 | 865人 |
| -7) 施設事業部 | : | 69回 | 1,304人 |
| -8) 医療サービス事業部 | : | 12回 | 192人 |
| -9) 保育事業部 | : | 112回 | 210人 |

6. 社会貢献活動と地域交流

6. 1 社会貢献活動の状況

(1) 秀峰会は、社会福祉法人として社会に貢献する事業体として、また職員は地域福祉の担い手として人間愛に満ちた行動に努めております。

地域清掃等のボランティア活動、実習生の施設受入れなど秀峰会としてできる限りの社会貢献活動を行っております。

(2) 実習生の受入れ

-1) 秀峰会は、社会福祉法人として、福祉サービスの担い手を支援する大きな責務があると認識しており、特別養護老人ホーム 南永田桜樹の森およびさくら苑、デイ

サービスセンター、訪問看護リハビリテーションステーション等の施設・事業所で毎年多数の実習生を受け入れてきております。平成28年度に受け入れた実習生の延べ人数は1,132人でした。

-2) 実習の目的は、福祉活動実習、教育課程実習、看護師研修、介護福祉士実習、社会福祉士実習、作業療法士実習等と多様であり、また実習生が所属する専門学校および大学は主として次のとおりです。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 慶応義塾大学看護医療学部 | ② 神奈川県東部職業訓練校 |
| ③ 神奈川県立よこはま看護専門学校 | ④ 横浜市医師会看護専門学校 |
| ⑤ 関東学院大学看護学部 | ⑥ 聖マリアンナ医科大学 |
| ⑦ 創英大学 | ⑧ 横浜市立大医学部看護学科 |
| ⑨ 横浜労災看護専門学校 | ⑩ 昭和大学保険医療学部 |
| ⑪ 横浜国際福祉専門学校 | ⑫ 帝京平成大学 |
| ⑬ 神奈川県社会福祉協議会 | ⑭ 田園調布学園大学 |

(3) フードバンクへの更改食料品の寄贈

昨年度に引き続き、平成28年9月(第2期)及び平成29年3月(第3期)にも特別養護老人ホームで防災備蓄している更改予定の非常食を、フードバンク活動を行っている「セカンドハーベスト・ジャパン※」に寄贈いたしました。第1期から第3期までの寄贈分累計は、主食1300食 副食1020食分になります。

- ・第2期寄贈分 : 主食100食 副食570食
- ・第3期寄贈分 : 主食700食 副食250食

寄贈した食料は生活困窮者や児童養護施設などへの支援として活用されます。

秀峰会は、今後も社会貢献活動の一環として、更改食料品のフードバンクへの寄贈に積極的に取り組んでまいります。

※ セカンドハーベスト・ジャパン(NPO法人)活動概要

社会制度上や企業内および流通上の規定によってやむなく発生してしまう規格外食品のうち、賞味期限内で、品質や安全性に問題のない食品を食品関連企業等から寄贈頂き、支援を必要とする生活困窮者支援団体や児童養護施設など福祉分野の施設・団体に無償で提供するフードバンク活動を行っています。

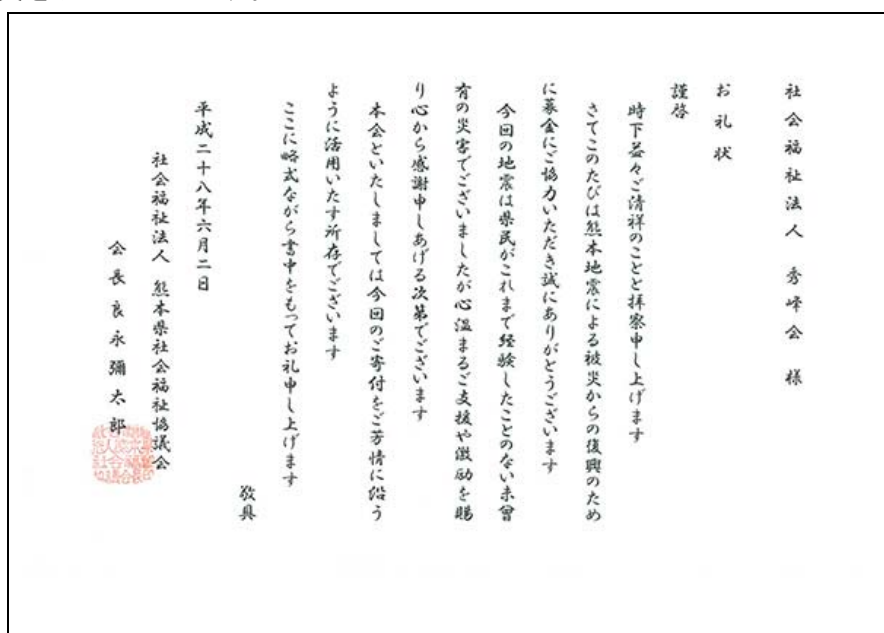
(4) 熊本地震被災地への支援活動

1) 熊本地震被災地向けの募金活動

平成28年熊本地震に伴う災害に対し、その被害が甚大であることから、秀峰会及び秀峰会職員は、被災地の早い復興の一助とすべく、職員の募金活動を行い、その義援金は1,323,800円となりました。これに職員親睦会「桜山の会」と秀峰会からの義援金を加えた総額3,323,800円を、災害義援金として、5月26日に「社会福祉法人熊本県社会福祉協議会」に寄付させて頂きました。

2) 熊本地震被災地へのボランティア派遣

「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」及び「みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク」との連携のもとで、秀峰会は、5月9日から1ヶ月に亘り、熊本県南阿蘇村の社会福祉法人順和会「特別養護老人ホーム ひのおか 順心館」に、さくら苑、南永田桜樹の森及び花の生活館の介護職員延べ8人を派遣し、施設職員の介護支援を行いました。社会福祉法人熊本県社会福祉協議会よりの感謝状およびボランティア活動の写真を以下に示します。



6. 2 地域交流の状況

- (1) 秀峰会は、特別養護老人ホーム、短期入所施設、グループホーム、通所介護サービス、小規模多機能型居宅介護事業所等の高齢者福祉サービス施設を運営しており、各施設が地域に開かれた福祉拠点を目指すと共に、地域の方々が交流できる拠点として施設を整備してまいりました。
- (2) 地域の自治会・町内会、民生委員、高齢者団体等のご協力をいただき、施設開放事業の実施、地区防災訓練や祭り行事などへの参加、また、幼稚園、小学校等との交流事業、中学校の職場体験などを通して利用者や地域の高齢者が施設を身近に感じられる取り組みをしてまいりました。